

新刊批評

模範我家の新家庭

竹島茂 郎著

著者は女子高等師範附屬高等女學校の教師で、現に某科の家庭を擔任して居る。そして此書物の刊行せられた由來は、本書中兩親に宛てた書面に由ると『兩親が自分を育養の苦勞を思ひ浮べ、かゝる時はかくしたまひつらん、かくこそと、昔を稽ねて今を知り、子供の行末目出たかれと、日々家庭教育の道に力を盡し發明したる事共の跡からざるものある』に由り、之を粹に上せる事になつたのであることが分る。以上で以て、凡そ本書の性質の大略が既に想像せられる。尙多少細かく言ふと、全編二十章、八十八節、家庭の和樂から起つて、家庭教育と學校教育、教育者としての父母、祖父母兄弟姉妹婢僕、家具什器、子供部屋のこと、說話と玩具、遊戲と作業、家庭の園藝、畜養、食物及衣服、休息及睡眠、規律的生活、訓誨、命令、賞罰、結婚、哺育、兒童期の注意、青年期の注意、將來の目的を定むることに付きて、其他の注意、といふ風に一々懇切叮嚀に説示せられて居る。殊に家庭の園藝、家庭の畜養といふ章は、全篇二〇〇頁の中、大凡五〇頁に亘りて、栽培すべき植物の種類、畜養すべき家畜家禽の種類方法を詳述せられ居る。これは家庭生活上、極めて趣味ある問題で、近頃、大分唱導せられる様になつた。著者が、この點に詳述せられたのは、頗る當を得たもの

で、又、著者の如き斯方面を専門に修められた人に向つて望むことが出来るのである。其他、哺育上のこと、食物、結婚等のことに付きても、面白い博物學的見地の上から説かれて居る跡が見える。本の体裁の上からいふと、全體四號活字、用紙も上等、且つ所々に美麗な寫眞版が混入つて居て、説明上繪を要する所には挿繪もある。大體に於て、極めて有益有趣なもので、讀者が之を精讀することによりて家庭教育上裨益する所頗る大なるものがあることは、深く信じて疑はない。

然し、望對の感を言はゞ、この書物は女學校位の教師の教授參考用として最も適當に思はれるが、若し家庭の讀物といふ上から見たならば評者の注文は實は次の様にして貰つたらと思ふのである。

一、全体に於て、文字文章が多少六ヶ敷過ぎる。到底今の日本の家庭の讀書力には適しないではあるまいか。或は、「家庭教育の書物だとして母に讀ませるに限らない」といふ人もあるかも知れぬが、然し、かゝる書物は處詮、婦人向きである。父よりも母に夫よりも妻に先づ勤めるべきものであつて見れば、文字文章は今少し、やさしくして其上振り假名付きにして欲しかつたと思ふ。それでないとして著者折角の我家の新家庭として世の模範たらしめんとする志望が充分達せられない憾があるまいか。

二、全篇理屈つぽくなつて居るのもつまり前條の文字文章の六ヶ敷過ぎるのと關係して居る様だ。家庭の讀み物としては、今少し理屈少くして實例を多くする様にして欲しかつた、何となく『家庭教育の教科書』といふ風に見えるのは、つまりこの邊からで

はあるまいか。第二三節小兒の言葉の所に、小兒研究用紙の見本を四頁添へられて、其記入の仕方なども細かく示されて居る、其用意の周到は謝すべきも、評者から見れば、こは家庭教育用ではなくて、寧ろ學校用で、教育的ではなくて、教育學的ではあるまいか。それよりか、實際的に子供の日記の附け方の完全な見本を示して欲しいと思ふ。尙玩具につきても、其避くべきものと、用ひるべきものとをたゞ規則の上からだけでなく、今少し讀者に實際的に分る様にして欲しかつたと思ふ。遊戯なぞも、家庭で適當な遊戯の種類や仕方などは、今日多致に望んで居るのであるが、此書物に由りては、たゞ遊戯の理論的知識しか得られないのは、聊か物足らぬではないか、勿論、著者は外用として、鞦韆シューロー 階段(階段といふ名前だけでは)テザーホール、室内用としてはピンポン玉盤玉突、新案雙六を擧げられたれども、金も掛らず、面倒もなくて室内で行はるゝ遊戯の種類その他に面白いのを、もう少し丁寧に教へてはくれたらばといふ愚痴もこぼしたくなる。以上忘評、切に著者の寛恕を乞ふ。

(牧羊生)

習慣につきて

和田 藏 子

追々に、幼兒保育の道が開けて來まして、近頃は、世間の人が、大部注意する様になり、従つて

幼稚園の數も、年毎に、ふえて來たのは、國の爲世の爲、誠に、喜ばしい事と思ひます、しかし、益々責が重く任が大きくなつてまゐりました。

私は、少しばかり、表題の一部分につき考へて居ります事を、記して見ませう。

私は、此夏休みに、或小さき友達と共に、數日を費すの好機會を得ました、其友達と申すは、知人の幼兒で、年齢は、僅か六才の女兒で、二三ヶ月前まで、或地方の幼稚園のお世話を受けて居りましたが、今回家事の都合により、両親と共に、上京されたのです、私は、都合して、此愛兒と共に、連日遊びました、其間に、極些細の事ですが、二つの感じた事がありました。

一、此兒の両親は皆衛生については、多少心がけて居りましたから、其兒にも、つとめて、注意